

第3回東大阪市上下水道事業経営審議会 議事概要

1. 開催概要

日 時	令和3年11月8日(月) 13:30~15:00
場 所	東大阪市上下水道局 水道庁舎2階 第1会議室
出席者	<u>委員</u> 杢永会長、笠原副会長、小出委員、東野委員、松浦委員、渡邊委員、梶原委員、廣木委員 <u>理事者</u> (上下水道局) 賀川、平山、吉村、堀ノ内、山口、木邨、蜂谷、巽、田中 <u>庶務</u> (上下水道局) 神谷、熊野、上山、他谷、武田、佐藤、尾崎、下別府、中島
次第	1 開会 2 会議の公開及び傍聴者の入場 3 出席者の紹介 4 議事 (案件1) 令和2年度東大阪市水道事業会計決算報告 (案件2) 令和2年度東大阪市下水道事業会計決算報告 (案件3) 水道ビジョンの次年度以降の進行管理 (案件4) 下水道事業経営戦略の次年度以降の進行管理 5 閉会
配布資料	資料-1 出席者名簿 資料-2 令和2年度水道事業会計決算説明 資料-3 令和2年度下水道事業会計決算説明 資料-4 水道ビジョンの次年度以降の進行管理 資料-5 下水道事業経営戦略の次年度以降の進行管理

2. 会議内容（要旨）

案 件	主な意見・質問	回 答 等
令和2年度 東大阪市水道事業会計 決算報告	<ul style="list-style-type: none"> 供給単価が大幅に減少している。 一般会計からの補助金を加味しても対前年比で落ち込んでいる。補助金では埋めきれなかったのか。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナの影響により有収水量の構成比率が大きく変わった。単価の安い家事用が増えたが、単価の高い業務用・事業用が減少し、給水収益が減少したことも供給単価の減少の原因である。
令和2年度 東大阪市下水道事業会計 決算報告	<ul style="list-style-type: none"> 国の厳しい財政事情による補助金の減額があった場合、どの事業に対して影響が出るのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 一般財源の事業である雨水事業。
水道ビジョンの次年度 以降の進行 管理	<ul style="list-style-type: none"> 進行管理の考え方で、次年度の予算編成作業では、進捗評価を確定後、予算に反映させるのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 計画を達成できなかった場合、（取組達成のために）予算を伴う取組もあるので、課題・問題点を整理したうえで予算に反映させていく。
	<ul style="list-style-type: none"> 企業債償還額が純利益を大きく上回る状況なので、何か起こったらすぐに企業債を発行するのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 企業債についても目標を設定しているので、そこは（企業債発行額を）きっちり決めて運用する。
	<ul style="list-style-type: none"> 負債を増やさずに、（水道）料金を上げるべきではないか。 本審議会で議論している料金改定は、料金回収率の改善に加え、基本料金と従量料金のバランスについても同時に進めようとしていることから、小口利用者の料金の上げ幅はかなり大きくなる料金改定かと思う。健全経営に向けて舵を切っている一歩なのではないか。 	
	<ul style="list-style-type: none"> 施策の中にはKPIが設定されていないものがあるので、重点施策は補助的なKPIなど管理指標を設定した方が、進捗具合を確認するときに活用できると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 次年度に向けて、再検討する。

案 件	主な意見・質問	回 答 等
	<ul style="list-style-type: none"> 評価の方法で、△は達成度が1%~99%と幅を持たせ過ぎている印象があるので、再検討してほしい。 	
下水道事業 経営戦略の 次年度以降 の進行管理	<ul style="list-style-type: none"> PDCA サイクルにおいて、定量的な指標に基づいたものだけでなく、定性的で単純な内容に留めるものもあるのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 施策の性質によっては定性的なPDCA サイクルになるものもある。